

## 前面海域監視技術適用性検証のためのレーダー設置工事(2地点目)開始について

2013年7月10日

当社の原子力安全技術研究所においては、発電所の初動体制や復旧作業に役立てるため、津波を早期に精度よく検知する技術の研究を行っています。

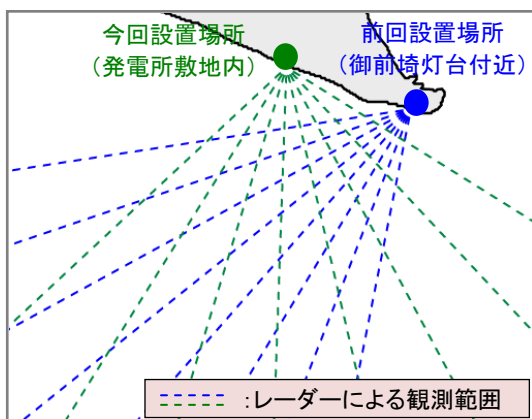
この研究の一環として、一般財団法人電力中央研究所の協力を得て、前面海域監視技術研究用のVHF<sup>※1</sup>レーダーを御前埼灯台付近に設置し、現在、発電所前面海域における海表面の流速観測をおこなっています。(平成25年3月5日公表済み)

本研究では、発電所敷地内にも同レーダーを設置し、前述の御前埼灯台付近のレーダーと組み合わせることで観測をおこなうこととしており、このたび、レーダーの設置工事を開始しましたのでお知らせいたします。

今回設置するレーダーは、送信用アンテナ1本、受信用アンテナ8本および観測所で構成し、発電所1, 2号機放水口付近に設置します。

本レーダーによる観測開始時期は、本年8月を予定しています。

本研究は、津波襲来に伴う沖合の流速変化を検知することが可能であるかの検証をおこなうことを目的としており、本レーダーを設置し、2地点から観測することで、より精度の高い流速変化の検知が期待できます。



VHFレーダーの観測範囲



今回設置するVHFレーダーの設置場所

※1 VHFとは、very high frequencyの略で、周波数が30MHz～300MHzの電波のことです。

以上